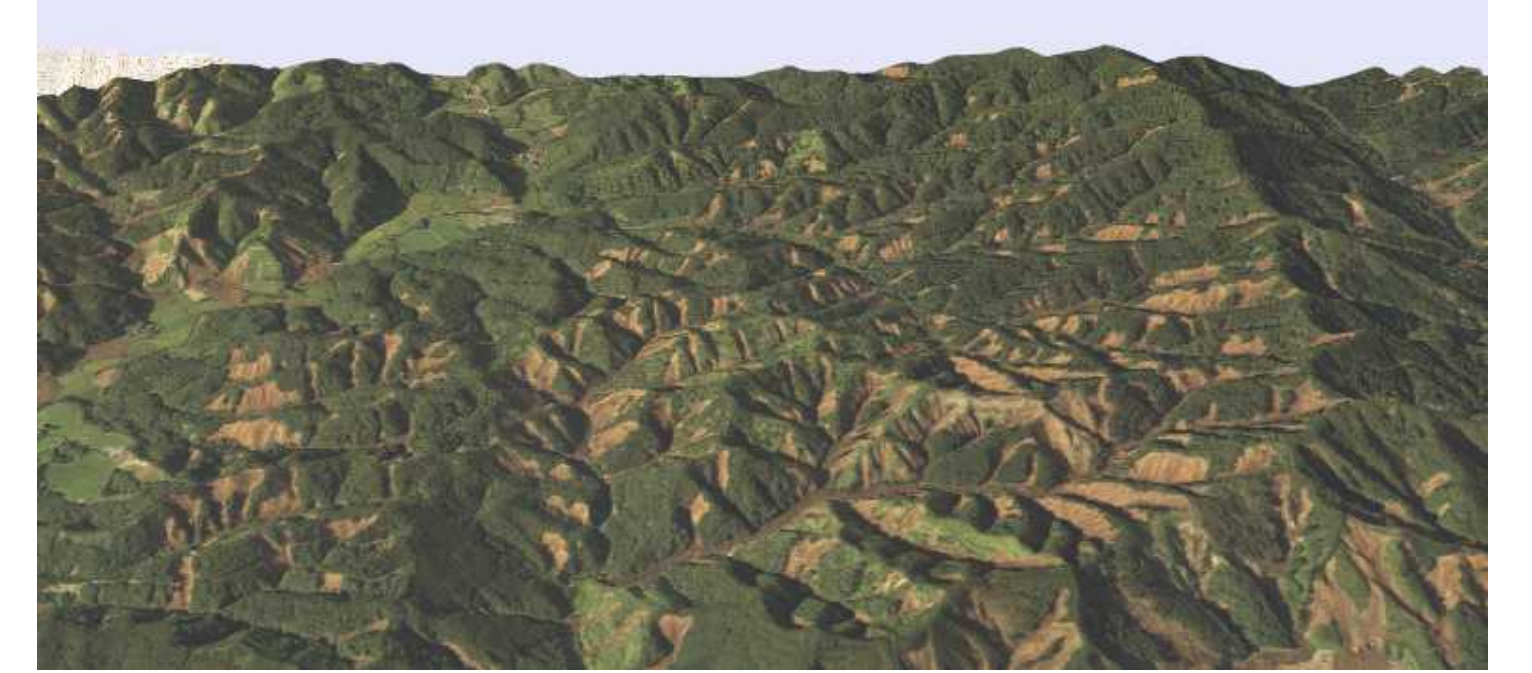


# 北海道胆振東部地震の被災状況の把握

## 地震の概要と被害状況

発生時刻 : 2018年(平成30年)9月6日3時7分頃  
マグニチュード : 6.7 (暫定)  
場所および深さ : 胆振(いぶり)地方中東部、深さ37km  
最大震度 : 7厚真(あつま)町  
震度 : 6強(安平町、むかわ町)  
人的被害 : 死者42人、負傷者762人  
建物被害 : 住家全壊462棟、住家半壊1,570棟  
(平成31年1月28日内閣府資料)

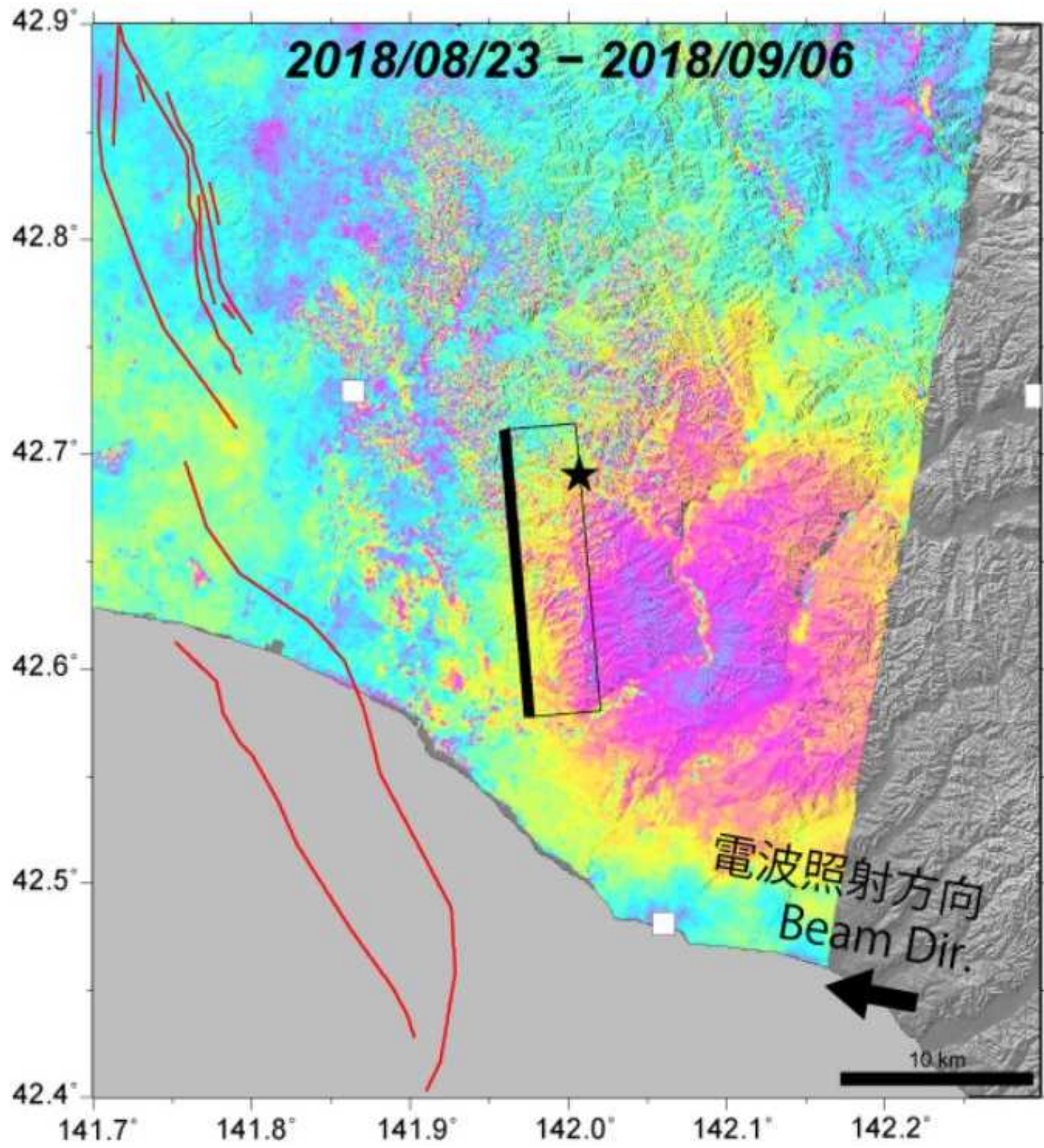


土砂災害227箇所(山地斜面が広範囲で崩壊し、土砂が建物を覆う被害が多発しました。)

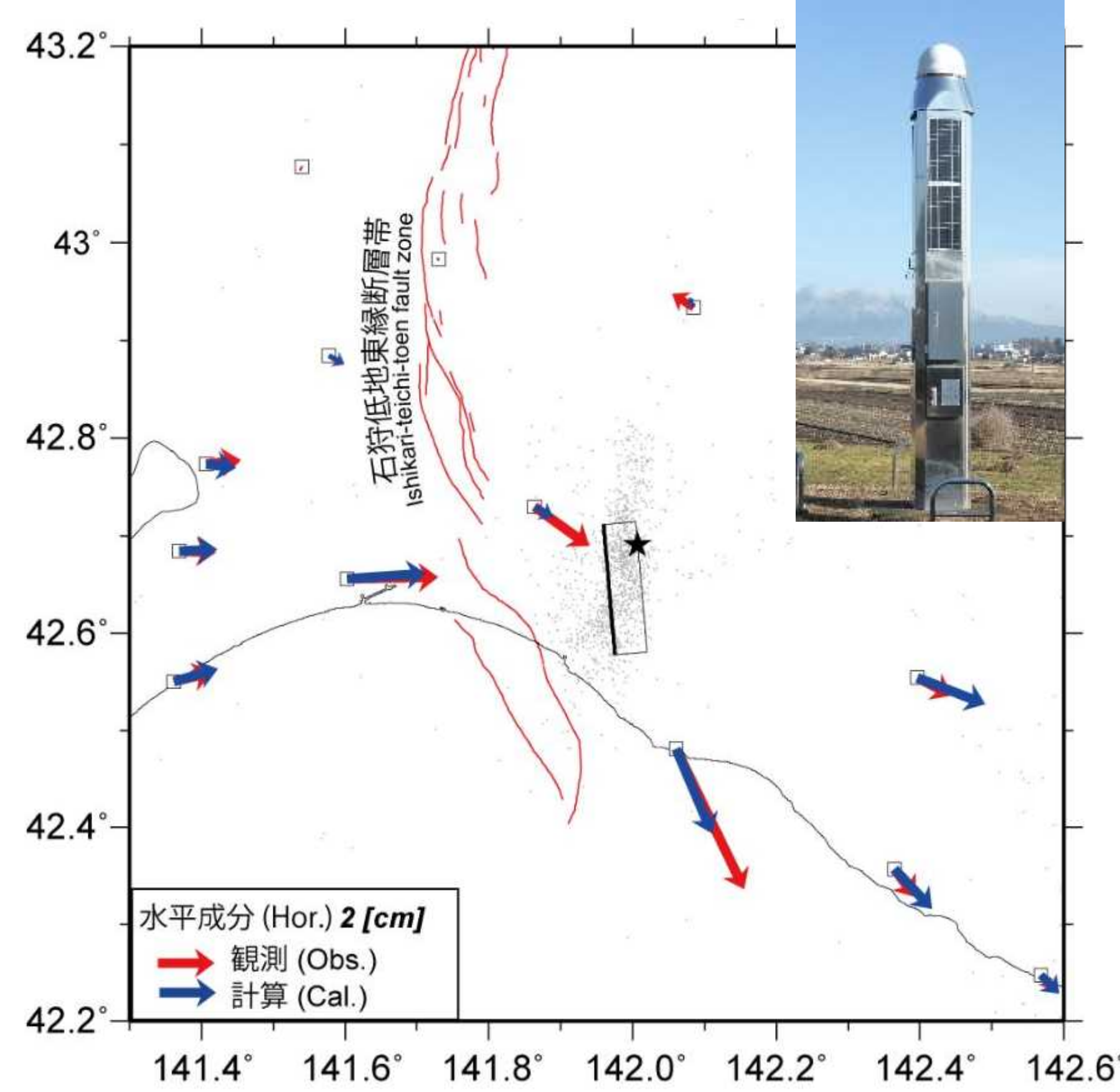
## 地殻変動の把握

SAR(だいち2号)およびGNSS(電子基準点)で観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定しました。

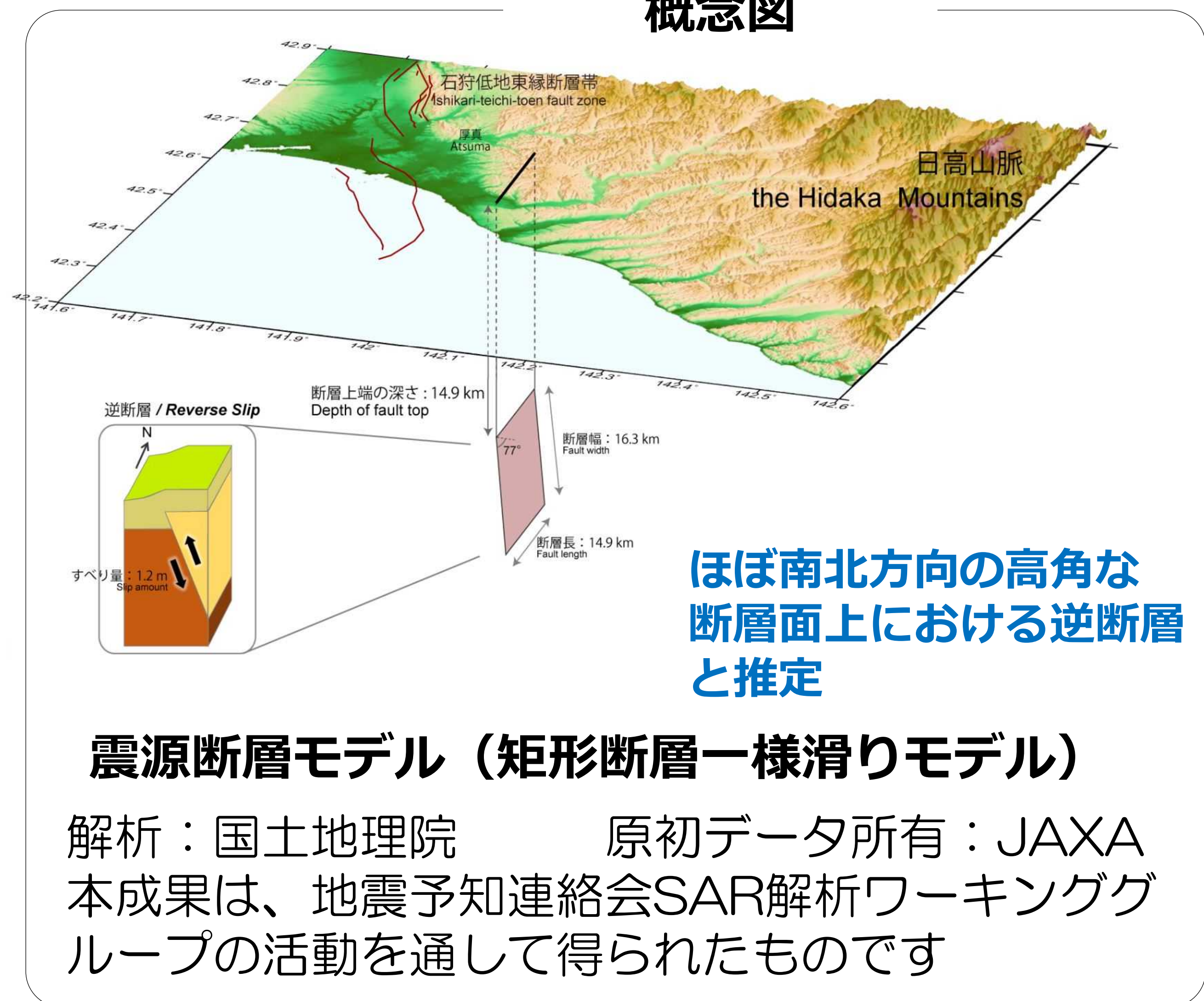
SAR(だいち2号)



GNSS(電子基準点)



概念図



## 測量用航空機による緊急撮影

測量用航空機(くにかぜⅢ)



北海道厚真町字東和周辺の空中写真(2018年(平成30年)9月6日撮影)

撮影した空中写真から地震によって生じたと考えられる斜面崩壊・堆積範囲を判読しました。





# 奥平台

## 関東大震災の写真絵はがき

写真絵はがきで見る関東大震災

### 関東大震災の写真絵はがき

住谷登志男蔵

写真絵はがきは、当時の様子を伝える貴重な情報伝達手段の一つでした。特に関東大震災後は、新聞、雑誌等が休刊となり、写真絵はがきは震災の惨状を伝える情報源として利用されました。こうした写真絵はがきは、被災に家た人たちが土産として持ち帰ったとされ、全国に震災の惨状を広める役割も果たしていました。

今回、展示している写真絵はがきは茨城県水戸市在住の住谷登志男氏の蔵から発見された写真絵はがきです。

上野付近



日本橋付近



### 絵はがき（萩野コレクション）



## 震災地応急測図原図と萩野はがきコレクション